

## 社内ニュース TOPICS

### 売上高500億円目指す一工場増設や技術開発軸に Targeting 50 billion yen sales in 1995 by facilities extension and technical developments

化工機メーカーの神鋼パンテック（旧社名神鋼フアウドラ、本社神戸市、社長川口正氏、資本金10億2000万円）は1990年度からスタートする5カ年の中期経営計画を策定した。最終年度に現在の1.4倍に当たる売上高500億円を目標に、新工場や技術開発センターなどを建設、株式の二部上場も予定している。不況克服のための合理化計画が今年度で終わるのを受け、積極的な技術開発と生産体制の再構築による攻めの経営を目指す。

経営面の目標のうち、売上高は現有商品で400億円、新製品で100億円を見込む。

経常利益は25億円（89年度見込み8億円）、自己資本比率は35%（同19%）を想定している。従業員は1100人の現状をそのまま維持する。

重点施策は生産体制の再編と開発力の強化。播磨工場（兵庫県播磨町）にステンレスとグラスライニング両部門の新鋭工場を新設、91年秋をめどに本社工場（神戸市中央区）の製造部門をすべて移管する。本社敷地には事務部門と子会社などが残り、工場跡地の利用は今後検討する。播磨工場内には現在、分散している研究拠点などを集約した技術開発センターも新設する。投資額は50億円を見込んでいる。このほか、主にサービス業務を手掛ける5つの子会社の年商も全体で65億円（89年度見込み）から同100億円に増やす。

神鋼パンテックは創立35周年の今年10月に社名を変更、米フアウドラ社との技術提携も90年末に切れることから、今後の経営戦略を練っていた。この経営計画は大枠を示しており、より具体的な施策は今年度中に各事業部などで詰める。

日経産業新聞（'89.10.26）

### 10万ポアズ<sup>ポアズ</sup>までの濃縮可能—高粘度液用薄膜蒸発機 EXEVA evaporator capable for high viscous products up to 100 000 poise

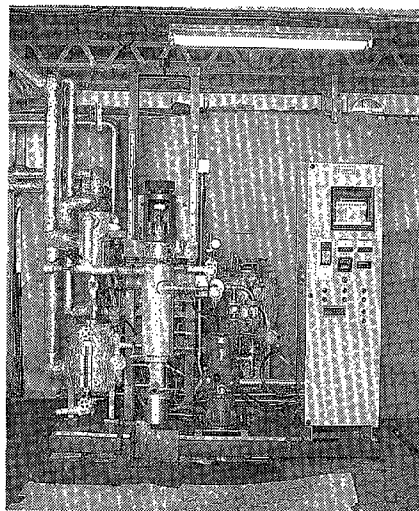
神鋼パンテック（10月9日付で神鋼フアウドラから社名変更）は、10万ポアズ(P)の超高粘度物質まで濃縮できる高粘度液用薄膜蒸発機「EXEVA（エクセバ）」を開発、今回の化学プラントショーの目玉のひとつとして出展する。最近、エンジニアプラスチックなどの高機能化に対応、モノマー、溶剤の含有率の低い高品質ポリマーの開発に各社しのぎを削っている。同装置は、同社が培ってきた薄膜蒸発技術を駆使、物性を損なうことなく短時間に効率よく超高粘度物質の高純度化を実現する。

「エクセバ」は、これまで極めて難しいとされていた1万P以上の高粘度性物質を10万Pという超高粘度に濃縮する画期的な薄膜蒸発機。機械的強制力を与え原料を薄膜化、高粘性ポリマーの脱モノマー、脱溶剤、脱揮工程を効率よく行え、しかも溶剤、モノマーの含有量が極めて低い高品質ポリマーを得ることができる。

機構は、脱揮能力に優れているにもかかわらずシンプル。原料供給口から流入した高粘度液を缶体内壁面に一様分散させるディストリビューター、分散した液を薄膜化させると同時に強制的に薄膜を下方に移送するかく拌翼、濃縮脱揮した高粘度液を排出作用で排出するスクリュウ排出機から成る。このため、動力エネルギーが非常に小さくてすみ、上方からディストリビューター、攪拌翼軸を、下方からスクリュウ翼軸を抜き出せるので、分解・点検が容易。

最大の特長は、処理液の残留粘度が10万Pの超高粘度まで可能なこと。薄膜化した原液が常に機械的強制力で移送され、全く重力自然流下域がないためだ。このため処理原液も10Pから5万Pと幅広い高粘度域に対応する。また常に多段特殊傾斜翼によって均一な薄膜を形成するので液表面積が大きく、高い伝熱係数が得られるので処理時間が数分と短く、物性の変化が生じない。もちろん濃縮脱揮能力も高く、実験では溶剤、モノマーの含有率を40%から0.02%にまで高純度化する結果を得ている。

ポリマーの高純度化ニーズは、エンプラなどの高機能化にともなってますます重要になっている。とくに高粘性物質の高濃縮脱揮は、従来の方法では不可能とされていただけに、「エクセバ」の業界に与えるインパクトは非常に大きいといえるだろう。 化学工業日報（'89.11.4）



エクセバ  
「EXEVA」